

ほっかいどう子育て応援大賞を受賞



読み聞かせは
親子の愛情を育む

絵本 交流会

普通のお母さんにできること

太 美のあるお宅で、楽しそうな笑い声が響いていました。部屋の中では「絵本交流会（代表 堀田則子さん 写真：前列中央）」のメンバー5人が次回、保育所での読み聞かせの打ち合わせ中でした。今回は、絵本交流会に、絵本の魅力を通して親子のコミュニケーションの大切さを伺うことができました。

子育て に絵本を！この言葉をモットーに昭和61年、3人の母親が「おはなしサークルたんぽぽ」の活動をはじめました。昭和63年にはサークルのOBが、日中、子ども達が幼稚園や保育所に行っている間、メンバーのお宅に集まり、読み聞かせに適した絵本や、その作者のことを調べたりと手探りの勉強をはじめました。それが今の「絵本交流会」の原点になっています。何せ普通のお母さんたちです。子ども達の喜ぶ顔を励みに活動を続けています。

読み聞かせ は本を通して親の愛情を伝えることだと思います。子育て講座でおはなし会をする時は、絵本を読むほか、エプロン着たまま、それを舞台に見立てて物語を展開するエプロンシアターや、小道具を使って子どもとなぞなぞなどをかけ合い、想像力を引き出すペープサートも行いますが、子どもたちは興味を示し、何でも話しかけてくれます。工夫した読み聞かせは、年齢に関係なく楽しんでもらえ、ディサービスでのお手伝いでも、お年寄りの方に喜ばれています。そのための下準備として、沢山の手づくり小道具もこしらえます。大変な作業ですが、切る、縫う、貼り付けるなど、7人のメンバーそれぞれに得意分野があり、分担して楽しく作れるようになりました。

今では 子育てサークルもあちこちに見られ、読み聞かせの重要さが認識されていますが、私たちの活動はその草分けでもあったような気が

します。やがて、教育委員会からも声がかかり、ブックスタートや学校支援事業にも参加し、西当別小学校の朝読書でもお手伝いさせていただいています。11月には北海道知事から「ほっかいどう子育て応援大賞」を頂きました。賞状の文面には「工夫あふれる読み聞かせで 大人も子どもも 絵本の大切さに気づきます」と書かれ、地道な私たちの活動が認められたことに、とても感激しました。

「やれる 人がやればいい。」24年間も続けられたのは、細く長く活動してきたからです。集まって半分以上はおしゃべり。それも重要なことです。この会を続けてきて、ここから育った子はみんな優しい子になったと思っています。メンバーの子どもさんと先生になった子もいますが、この前、沢山の絵本を買い求めています。「児童に読んであげる」と言い、張り切っていましたね。私たちの活動が繋がっていくのかなと嬉しく思いました。（12月4日取材）